

# 「2030デジタル・ライブラリー」推進に向けたロードマップ

2024年7月1日  
「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

## 参考資料 1

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する  
検討会(第13回)R8.3.2

第6期科学技術・イノベーション基本計画

即時OA義務化

第7期科学技術・イノベーション基本計画

	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030年の望ましい大学図書館	
〔1〕支援機能・サービス	<b>調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存資料のデジタル化推進体制・支援・出版の事例調査</li> <li>DDS/ILL等も含めた海外の大学図書館等における資料提供の実態</li> <li>コピーライトライブラリアン</li> <li>コロナ前後での大学図書館の機能の変化</li> <li>既存実施調査のリヴァイズ</li> </ul>	<b>整理・検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学術書のデジタル出版活動のモデルの検討</li> <li>デジタルコンテンツの利活用に関わる権利（OAに関する権利、知財としての研究データの権利・ライセンス等）に詳しい専門人材の配置</li> </ul>		<b>実証研究・試行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立国会図書館と大学図書館との連携モデル（コンテンツ収集体制等）</li> <li>大学出版者等と大学図書館協働の学術書のデジタル出版活動のモデル</li> <li>デジタルコンテンツの利活用に関わる権利に詳しい専門人材の配置</li> </ul>			<b>展開・拡張 実装</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機関が公開しているデジタルコンテンツを、利用者がいつでもどこでもシームレスに利用できる統合的な利用環境の実現。</li> <li>研究者のニーズに沿った大学全体の支援体制を構築し、メタデータ付与やデータ公開の支援体制を整備</li> <li>オープンアンドクローズド戦略に基づく研究データの管理・公開・共有が実現。</li> </ul>
	<b>調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外のOA推進の施策</li> <li>既存学術情報流通に関するシステムの連携状況調査</li> <li>既存実施調査のリヴァイズ</li> </ul>	<b>整理・検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>一定水準のメタデータ付与の実施体制整備の検討</li> <li>国際的なシステムとの連携や多様な識別子との紐づけ等高度な研究データ検索システムの開発・実働</li> </ul>		<b>実証研究・試行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな情報科学技術（AI等）を活用した、自動収載・自動検索システムを搭載したプラットフォームの開発と試験運用（閲覧・目録システム、OA、研究データ管理・公開等）</li> </ul>				
〔2〕場	<b>調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内ステークホルダー実態調査（利用行動、ニーズ、コロナ前後での行動変容等）</li> <li>海外大学図書館の教育・研究支援におけるデジタル技術の実装事例調査</li> <li>既存実施調査のリヴァイズ</li> </ul>	<b>整理・検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2030年のペルソナ像の検討</li> <li>利用者がその機能を十分に活用できる情報システム環境や学習環境についての整理・検討</li> <li>キャンパス全体の学習環境の再設計の検討</li> </ul>		<b>実証実験・試行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライブラリー・スキーマに基づく、オンラインツール等を活用した複数館連携によるサービス体制の実証実験</li> <li>オンラインツールやAI等の新たな情報科学技術の活用・応用により、リアルとバーチャルのハイブリッドな学修環境や、個々の利用者に応じて高度に最適化した環境の整備と試行</li> </ul>		<b>展開・拡張 実装</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学図書館自らの存在を規定する基本的な論理構造としての「ライブラリー・スキーマ」に基づいたシステム開発がなされ、各利用者のニーズに即した仮想空間を設定。</li> <li>大学図書館が物理的な場の域を超え、学内のいたるところへコンテンツを提供できる環境が大学全体でデザイン・整備。</li> </ul>	
	<b>調査・整理・検討【関連団体・組織等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライブラリー・スキーマの検討と共有、実装に向けた検討</li> <li>利用者の行動変容やニーズに関する調査</li> </ul>							
〔3〕人材	<b>調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>求められるスキルや専門性とその養成（海外事例）</li> <li>大学図書館職員に求められるスキルに関する既存調査の整理</li> <li>既存実施調査のリヴァイズ</li> </ul>	<b>整理・検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外事例の整理（スキル）</li> <li>リカレント教育の環境・支援制度整備に向けた内容や実施体制</li> <li>研究のライフサイクルと研究者の作業フローの見える化</li> </ul>		<b>試行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>最新の学術研究の動向を踏まえ、既存の研修制度やプログラムを活用したリカレント教育の実施と改善</li> </ul>		<b>展開・拡張 実装</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門人材の新規雇用、複数館での業務従事が可能な、より多様な人材確保と配置ができる柔軟な制度を整備。</li> <li>図書館機能の高度化・効率化により、従来業務の省力化がなされ、より専門的な教育研究の支援業務に従事。</li> <li>専門人材の業務の評価が適切に行われ、最終的に大学全体のマネジメント業務にも従事できるようなキャリアパス制度を確立。</li> </ul>	
	<b>調査・整理・検討【関連団体・組織等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の大学図書館職員研修制度に関する整理・検討</li> </ul>	<b>整理・検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外事例の整理と実装可能性の検討（人事制度）</li> <li>現行の国内制度の把握と整理</li> </ul>		<b>実証実験</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>クロスアポイント制度等を活用した、一大学一図書館に閉じない形態での専門人材活用モデルの試行</li> <li>研究のライフサイクル等の基礎的な知識を把握・理解している大学図書館職員がサービスの受け手に近い距離でのサービス提供体制の構築と試行</li> </ul>				
	<b>調査・整理・検討【関連団体・組織等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学図書館の人事制度：現状と課題</li> <li>効果的な人事交流の在り方について検討</li> </ul>							